

**在スロバキア日本国大使館**  
**政治・経済月報（2014年11月）**

目 次

**内 政**

- ◆ズヴォレンスカー保健相の辞任 . . . . . 2
- ◆地方選挙の結果 . . . . . 2
- ◆ペレグリニ新国会議長の就任 . . . . . 2

**外 政**

- ◆ライチャーク外相の中東諸国訪問 . . . . . 2
- ◆V4、独及びウクライナ首脳会合 . . . . . 3
- ◆国防省による対空レーダー調達 . . . . . 3

**社 会**

- ◆学生及び年金受給者の鉄道運賃無料化 . . . . . 3

**経 済**

- ◆OECDレポートの公表 . . . . . 4
- ◆「V4+日本」協力によるビジネス会議の開催 . . . . . 4
- ◆ハンガリー企業のスロバキア電力会社買収への関心 . . . . . 4
- ◆スロバキア中央銀行月報（11月） . . . . . 5

別添：主要経済指標

※本月報は公開情報を在スロバキア日本国大使館がとりまとめたものです。

## 内 政

### ◆ズヴォレンスカー保健相の辞任（11月4日付主要紙）

ズヴォレンスカー保健相は、ピエシュチャニの病院でのCTスキャナー購入に際して実施された入札に係る疑惑のために、内閣を去ることになる。病院の理事会は、2012年に実施された入札を取り消し、改めて行った入札額は60万ユーロ高くなっていた。同保健相は、与党Smerによって任命されていた病院の理事会メンバーをすべて解任すると共に、自らも辞表を提出した。解任された理事には、ズマイコヴィチョヴァー国会副議長も含まれおり、同副議長は副議長職も辞することとなった。（注：6日、チスラーク保健副大臣が後任の保健相に任命された。）

### ◆地方選挙の結果（11月15日）

統一地方選挙（市町村首長選挙、市町村議会選挙）が実施され、主要8都市の市長選挙では、首都ブラチスラバを含む4都市で無所属候補が勝利した。特に、首都ブラチスラバでは、事前調査において3位であった無所属のネスロヴナル候補が2人の有力候補を抑えて勝利する波乱が起こった。その他の首長選挙では、与党Smer及び無所属の候補が大きく躍進した。また、市町村議会選挙においても、Smer及び無所属が大幅に議席獲得数を伸ばした。市町村議会選挙の投票率の全国平均は48.34%であった。

奈良県野迫川村の姉妹都市であるビソケー・タトリ市の市長選挙では、モコシュ現市長（無所属）が再選され、秋田県小坂町と協力関係にあるバンスカー・シュティアブニツァ市の市長選挙では、Smerが支持するバビアコヴァー現市長が再選された。

### ◆ペレグリニ新国会議長の就任（11月25日付スメ紙）

パシュカ国会議長がピエシュチャニ市の病院のCTスキャン購入に係る不正疑惑との関連が報じられたのを理由に議長職（及び議員職）を辞任したことを受けて、ペレグリニ教育相が後任の議長に就任することになる。野党は、新たな国会議長を歓迎している。Most-Hidのブガール党首は、「ペレグリニ教育相については、能力のある人物と見ている。野党にとっても新たな政治文化をもたらす機会となる」と述べた。（注：同教育相は、25日に教育相を辞任し、同日午後国会において実施された投票により新議長として選出された。）

## 外 政

### ◆ライチャーク外相の中東諸国訪問（11月10日～12日）

10日、ライチャーク外務・欧州問題相は、イスラエルを訪問し、リーベル

マン外相と中東情勢に関して協議を行った。両国は科学、研究、イノベーション等の分野における具体的な産学協力に関心を抱いている。また、同日のマリキ・パレスチナ自治政府外相との会談において、ライチャーク外相は、スロバキアがガザ地区の復興プロセスに参加する意志を有していることを強調した。

11日のジュデ・ヨルダン外相との会談において、ライチャーク外相は、「ヨルダンの寛容な立場は、国際情勢の安定化に寄与し、現在の不安定な中東地域において極めて重要なものである」と指摘した。また、12日のアル・ヌスール・ヨルダン首相との会談後には、ヨルダン交通省において、両国間の定期運航実現に向けた法的条件を整備するための協定に署名した。

#### ◆V4、独及びウクライナ首脳会合（11月16日）

ブラチスラバにおいてV4及びウクライナ的首脳会合が開催され、キスカ大統領、ゼマン・チェコ大統領、コモロフスキ・ポーランド大統領、アーデル・ハンガリー大統領及びポロシェンコ・ウクライナ大統領が出席した。ポロシェンコ大統領は、現在のウクライナの挑戦が、領土的一体性のためだけでなく、民主主義と自由のためでもあることを強調した。また、同大統領は、V4からの支援を不可欠なものとして高く評価した。同日、旧国民劇場で行われた記念式典には、V4、ウクライナの大統領の他、ガウク独大統領も出席した。式典には数百名の招待客が出席し、出席者は、25年前に起こった鉄のカーテンの崩壊、そして、スロバキアの民主化に思いを馳せた。

#### ◆国防省による対空レーダー調達（11月22日付スメ紙）

独自の対空レーダー開発を目指すチェコとスロバキアの軍事企業のコンソーシアムは、数百名分の雇用創出及び製品輸出も可能であるとの考えを示していたが、チェコ国防省に続いて、スロバキア国防省も、独自開発のレーダーではなく、外国製レーダーを調達することを決定した。すでに、スウェーデン、フランス、イタリア及びポーランドの企業から対空レーダーの金額提示を受けている。国防省は、購入先の決定方法について、入札にはかなりの時間を要することから、入札を実施しない可能性について示唆している。

## 社会

#### ◆学生及び年金受給者の鉄道運賃無料化（11月17日）

11月17日より、子供（15歳以下）、学生（26歳まで）及び年金受給者は鉄道運賃が無料となった。無料乗車券の提示により、62歳以上の年金受給者に加えて、社会保障の法令に基づき年金受給者と認められているすべての人々が無料で乗車することが可能となった。障害者年金等の受給者も対象とな

っている。登録後、対象者には新しい証明書が発行され、ローカル線及び長距離路線の無料乗車券を入手することが可能となる。

## 経 済

### ◆OECDレポートの公表（11月5日）

スロバキアを訪問したグリアOECD事務総長は、スロバキア経済に関するOECDレポートを公表した。同レポートによると、スロバキアの経済成長は、西部の輸出志向製造業に依存しており、中部及び東部地域の経済は遅れている。

財政健全化の継続と強化は、金融市場からの信頼につながっているが、他方で、特に公共投資の減少と税率の上昇により国内の成長要因を阻害することにもなっている。徴税率は上昇しているものの、更なる改善が求められる。

公共部門では「e-government」及び「e-procurement」の活用が遅れている。ビジネス活動の基盤となる規制枠組は依然として不十分なものであり、汚職も成長の阻害要因となっている。EU基金の活用については、省庁間のシステムティックな評価体制と協調の欠如、煩雑な手続き及び不十分な行政能力といった問題を抱えている。

### ◆「V4+日本」協力によるビジネス会議の開催（11月19日）

外務・欧州問題省、国際ヴィシエグラード基金等によって「V4+日本」交流年事業の一環として中小企業支援に関するビジネス会議「日本、モルドバ、グルジア及びアルバニアにおけるビジネスの展望」が開催された。「日本におけるビジネス展開」セッションでは、ジェットロ・ウィーン事務所の小野所長から、日本の中小企業支援政策の概要及びジェットロの役割等について紹介するプレゼンテーションが行われた。また、太陽光発電部品等の製造を行う三鈴スロバキア社より、同社が関連会社を通じて始めたスロバキアワインの日本への輸出の事例が紹介された。

### ◆ハンガリー企業のスロバキア電力会社買収への関心（11月21日付スメ紙）

国営ハンガリー電力（MVM）とスロバキアのスロブナフト社（ハンガリー・ガス石油会社傘下）は共同で、スロバキア電力会社株式66%と同社保有のモハウツェ及びヤスロフスケー・ポフニツェ原発を獲得することを望んでいる。ある専門家は、ハンガリーがロスアトム社とパクシュ原発拡張に関して合意したことに注目し、MVMが、パクシュ原発プロジェクト推進のためにモハウツェ原発拡張工事の情報を求めていると指摘している。他方、MVMとスロブナフトの関心は、中欧の電力分野におけるチェコ電力会社との覇権争いにあると指摘する専門家もいる。

## ◆スロバキア中央銀行月報（11月）

### 1. GDP

ユーロ圏の2014年第3四半期GDP成長率は0.2%と前向きな動きを示した。第3四半期のスロバキア経済は、内需に支えられて、前期比成長率が第2四半期と同じ0.6%に達した。9月の売り上げは前期比での減少傾向が継続した。前期比で更に下落した自動車産業が、鉱工業部門の売り上げを特に鈍らせた。逆に商業、特に卸売業及び小売業が売り上げ全体の落ち込みを和らげた。9月の鉱工業生産は前期比で0.3%増加し、内需にも後押しされてプラス成長を維持したものの、自動車産業の落ち込みが、鉱工業生産の前期比での伸びを鈍らせた。また、金属、電機及び化学部門の鉱工業生産の成長に対する貢献も低下した。

### 2. 雇用率及び賃金

9月も3ヶ月ベースでの雇用率上昇の鈍化傾向が続いた。前月比での雇用率は僅かな上昇を示したのみで、前年同期比では2.1%の伸びであった。鈍化傾向は、特にサービス部門、次いで鉱工業及び商業部門に見られた。失業者数は10月に2200人減少したが、9月よりは少ない数となった。季節調整後の登録ベースでの失業率は0.08%低下して12.3%となった。9月の平均賃金は夏期からの小幅な伸びから改善し、前年同期比では3.8%増となった。9月の平均名目賃金は811.4ユーロであった。

### 3. 物価

10月の消費者物価指数は前年同期比で0.0%と変化はなく、前月比では0.1%と僅かに上昇した。前年同期比での物価が前月の下落傾向から0%に回復した背景としては燃料を除く鉱工業製品価格の上昇が若干加速したことが挙げられる。食料品価格は引き続き下落する動きを示しており、エネルギー価格と共に2014年の低インフレ状況の大きな要因となっている。

### 4. 貿易

9月の商品輸出額（実質）は前期比で0.7%減と減少傾向が若干加速したが、第3四半期の貿易統計における輸出の減少率は0.7%と、第2四半期（2.4%減）ほど顕著なものではなかった。2四半期連続で自動車及び関連品が前期比での商品輸出の減少の主要因となった。電気産業は、中国、欧州及び米国市場における需要により、輸出の一層の下落を押し止めた。輸入は実質で前期比1.9%減となった。自動車産業の輸入が大幅に抑制され、ガスの輸入も減少した。9月の季節調整前の貿易収支は5億8200万ユーロの黒字となった。貿易黒字の対GDP比（過去12ヶ月の累計）は、前年同期比と同様、6%を僅かに上回った。

（了）

# スロバキア主要経済指標

(出典:スロバキア統計局)

